

29 住み慣れた地域に住み続けるための、地域内交通による小さな拠点づくり

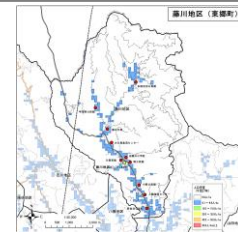
メンバー

実施者：藤川地区コミュニティ協議会
連携団体：薩摩川内市、自治会、地区内商店、社会福祉協議会

活動目的

高齢者が気軽に地区内を行き来できる移動手段を確保し、地区内商店への買い物送迎、地区内イベント等への送迎、地区外へおでかけサロンとしての集団送迎等により、外出頻度を促進させ、地区内交流により過疎地域でも生きがいや希望を持って暮らし続けられるよう地区内住民が支援することを目的とする。

対象地域：
鹿児島県薩摩川内市藤川地区
人口：
259人
(令和3年3月31日時点)



取り組み内容

キーワード：地区内送迎／簡易な予約管理／小さな拠点づくり／中山間地域／高齢化

- ① ボランティア運送車の運行：閉じこもり防止等を目的に実施。利用者数759人
(目標を下回ったが、地区内交流の活性が得られた)
- ② おでかけサロンの送迎：地区外送迎を目的に実施。利用者数63人
(目標を下回ったが、地区内では利用されない方々の利用と理解が得られた)
- ③ 地区内商店への買物代行：地区内商店の存続を目的に実施。利用者数0人 (目標を下回ったが、サロンの送迎時の立ち寄り推奨に変更し、高齢者は商品を直接見て買うことを希望することがわかった)
- ④ 地域ボランティアの活動者送迎：共助活動の支援を目的に実施。利用者数14人
(目標を下回ったが、若い男性の理解が得られた)

2020年度の活動実績

小さな拠点づくりの実証実験：2019年8月の運行開始から引き続き、2020年度も、送迎による地区存続のモデルケースづくりを目的に市の実証実験として藤川地区が実施。2020年度の利用者数366人 (コロナにより目標を下回ったが、高齢化が進む地区でも順応しやすい仕組みが得られた)



取り組みが地域に与えた影響

(量的な影響の例)

- ・地区住民259名中85名 (32.8%) の利用があった。
- ・当該送迎の仕組みが、地区に住み続ける助けになると答えた方が77%。

(質的な影響の例)

- ・離れた場所で行われていたサロン同士の交流会を当該運行を活用して行い、現在も続いている。
- ・男性のサロン参加者が増えた。
- ・交流のためのサロン参加が、地区内商店での買物の機会にもなった。
- ・まだ高齢でない方々が、自身が高齢者になり免許返納となった場合のことを考える機会につながった。

取り組みで得た知見 (これから取り組む方に伝えたいこと)

法律とコストの面は最低限クリアしなければならないラインがあるため、仕組みづくり前から関係者への理解を得ることや、なるべく早い段階から自治体の交通部局や運輸局との調整をする方が良い。

専門家コメント_グロ-カ交流推進機構

1台の車両を、サロン送迎や地域外のお出かけなど多様な目的で活用しています。協議会の皆さんが、予約受付・運行管理を一括して行い、規模の小さな地域だから可能なローコストオペレーションを実現できた好事例です。

これまで距離を理由にサロンに参加することができなかった高齢者が、「お出かけ号」の運行を機に参加されるようになるなど、高齢者の生きがいづくりを支える大切な仕組みになっていると思います。